山行報告書

神戸勤労者山岳会

１参加者

Ｌ西尾、宮島

２山域・ルート

比良　口の深谷

３交通手段　　車

４行動記録

入山日　２０１４年０６月１４日

6月１４日（土）　6：30 尼崎発-名神-京都南-明王谷駐車場/
9:15 駐車場発-9:25 明王谷入渓-9:40 堰堤-9:55 小左岸巻き-10:20 右岸高巻き-11:20 奥の深谷分岐 11:40-1150①斜滝 7m-12：40②形よい 8m 滝-13：10③13m 滝 14:20-14：30 炭焼窯跡-14:40④CS 滝 6m-15：13 炭焼窯跡-15:15⑤8m 滝-16:20⑧15m 滝-17:06 登山道との交差点(965m)遡行終了 17:50
-18:00 ワサビ峠-19:23 坊村下山~朽木温泉てんくう~帰神

５山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 予定のルート・日程で行動出来たか　予定ルートをはずれた場合あるいは日程が異なった場合はその理由

・カーナビの設定(距離優先設定だった)で京都南インターで降りてしまい京都市内を通ったことで１時間遅い入渓となった。

・遡行時間 3.5 時間に見積もって計画を立てたため、当初の予定の武奈ヶ岳に行けなかった。吉岡本の遡行時間(3.5-4.5 時間)

・下山が 19:30 と日没ぎりぎりになったが、なんとか明るいうちに下山できた。

・<u>沢はもう少し余裕をもって計画を立てるべき。吉岡本の時間の 1.5 倍は見ておきたい。</u>

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか　発生した場合は具体的に記す

＜落石＞

③１３ｍ滝の左岸ガリーを巻くときに、一か所段差がありガリー通しに登れなかった。そのためガリすぐ右の斜面に逃げて、変則スタカットで登った。そのときにＭもＮも石を落としてしまう。幸いにも「ラク！」の合図もあり、石の落下ルートも逸れてくれて当たらなかった。

踏みあとらしきものを辿ってしまい、本来の高巻きルートよりも上がりすぎてしまった。

＜もしもフリーだったら＞

⑧１５ｍ滝（この谷最大の滝で核心）

遡行図には「ザイルで確保」と書いてあったが、現場で見た限りではノーザイルでも行けそうだった。Ｌにザイルを出すかどうか聞いたところ、要ザイルとの回答だったため、右岸のバンド入口まではフリーで登り、そこでカム二つから支点を取り、流動分散セルフビレーをとって、スタカットで登った。右上するバンドは簡単だったが、滝頭はつるつるでホールドがない。やや信用できない木に中間支点を取って、右岸のつるつるの岩場を微妙なホールドとスタンスでトラバースして、なんとかクリア。冷や汗をかいた。

*登りきると、滝頭からは左岸のバンドを小さく巻けばもっと簡単であったと予想できた。遡行図の「出口は緊張させられる」の意味がようやく理解できた。

<u>ザイルで確保と書いてあるようなところは、確実に出すようにしたい。</u>

c パーティーで山行中の事故に繋がる要因について山行後検討したか

山行中に意見交換をした。

６その他ルートに関する情報・気がついた事など

<明王谷>

一昨年に引き続き２度目。途中の滝の右岸高巻きが核心。昨年にはなかった固定ザイルが張っていたため、高巻きの入口がやや楽になった。２度目で道も知っていたこともあり、あまり高巻かずにトラバースぎみに行く。安全のため、お助け紐でスタカット 2p していく。

明王谷から詰める他２組がいた。１組を高巻で抜き、１組は若い男性２名で、口の深谷分岐で追いつかれた。ここで軽く昼食としてカップラーメンを食べる。沢にテルモスは必須。

ここで３組が合流したが、１組は白滝滝、若い男らは奥の深谷、ということで三組とも入谷が異なっており、ここで挨拶して別れる。

<口の深谷>二人とも初めて

①斜滝 7m 直登失敗　水の量が多く、濡れて寒いのであきらめて高巻きにした。(吉岡本では高巻)

③13m 滝　高巻きすぎ。修正して少し降りながらトラバースしていくと、木にペンキ、捨て縄を発見し、ルートに戻る。なぜか新品のシュリンゲが落ちていた。ちょうど先行４人パーティーが高巻きを終わるころに我々は滝に着いたのであやしい。滝の下からガリーを登らずとも、もっと手前からトラバースしたほうが楽だと思う。

⑧15m 滝　ザイルは必須。バンドを右上し滝頭に来たら、右の土付きに出て右側のバンドを進むのが正解。左側のつるつるの岩のトラバースは緊張した。ハーケンがあればだいぶ楽になると思う。

＊多人数のときはザイルを固定してタイブロック等で登るほうが早いが、二人の場合はつるべのほうが早い。そこらへんの意思疎通がとれておらず、最初にザイル固定を連発して時間をロスした。

・口の深谷の遡行時間 5.5 時間は吉岡本の 1.5 倍ほど。いままでに比べれば上出来。

＜Mの個人的見解＞

・ハーケンの必要性を感じた。⑧15m 滝でハーケンがあればランニングが取れて安心

・高巻きでもハンマーがほしい。③ガリーを直登できればもっと安全だった。

・カム２個、ザイル、お助けひも、笛と持ってきた装備をフル活用した。声は沢の水音で消されて聞こえないため、特に笛は重宝で、③、⑧でめいいっぱい使った。(2012/5 毛勝三山以来)

報告者氏名　宮島　２０１４年０６月１９日

左：13m 滝③　中央上：CS 滝付近　　中央下：遡行終了点　　右：15m 滝⑧